

CX週間展望(11月22日~)

週間展望(11/22~11/28)

~ WEEKLY FORECAST ~

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(11/22～11/28)

～ ドル円～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「115円の上値抵抗感は継続しており、同水準を上抜くまでは、112円～115円の狭いレンジ相場が継続見通し。一方、115円を上抜いてくると、118円～120円が視野に入る。
- ～中略)。バイデン大統領が牽制しているガソリン高抑制政策の行方にも注意。インフレの行方が金利に影響を与える。また、今週は、米FRB関係者の発言予定が相次ぎ、出口戦略・インフレに対する思惑で左右されそう。》としたが、先週は、市場予想を上回る米経済指標の発表が相次ぎ、米景気への楽観が広がり、米長期金利が上昇、日米金利差の拡大観測から円売り・ドル買いが優勢になったが、心理的節目115円は抜けず。
- 感謝祭までには次期FRB議長が選ばれると報じられており、よりハト派色が強いブレイナード理事選任の可能性も意識され、急ピッチなドル高に警戒感が出た。
- 先週末のドル円は、オーストリア政府は19日、22日から全土でロックダウン(都市封鎖)を実施すると発表。ドイツなど主要国でも厳しい規制が導入されるとの見方もあり、欧州の景気回復が遅れるとの警戒感から相対的に安全な資産とされる米国債は買われ、19日の米長期金利は低下した。日米金利差縮小から円買いドル円売りの展開。
- CFTC建玉明細(11/16現在)は、93,126枚の売り越し。前週(105,351枚の売り越し)から縮小。

115円が上値抵抗

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(11/22～11/28)

～ ドル円～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

FOMC人事と、原油高政策と、欧州コロナ再拡大の動きが注目

- 米国のインフレ率が約30年ぶりの高水準に達し、雇用増のペースも加速する中、19日は連邦準備理事会(FRB)当局者から景気支援策の早期終了を示唆する発言が相次いだ。
- クラリダFRB副議長は、インフレ上振れリスクが存在し、経済は「非常に力強く推移している」とし、12月のFOMCでテーパリングのペース加速を討議することが「極めて適切となる可能性がある」と述べた。
- ウォラーFRB理事は、持続的な高インフレや堅調な雇用の伸びを踏まえ、FRBはテーパリングのペースを加速させ、予想よりも早期に利上げを実施する用意を整える必要があるとの見解を表明。来年1月にテーパリングのペースを倍増させ、4月に完了させた上で、第2・四半期に利上げに着手する案に支持を表明した。
- セントルイス地区連銀のブラード総裁も景気支援策の解除に向けた動きの加速を提唱しており、次回FOMC(12/14-15)で討議される可能性が浮上している。
- 一方、欧州は新型コロナウイルス感染再拡大で、ユーロ売り・ドル買い、ユーロ売り・円買いが続いており、ユーロの底打ち感が出ていない。FRBとECBの金融政策に関するスタンスの違いからドル買い、ユーロ売りの流れは継続。
- FRB人事は、ブレイナード理事選任の場合は、ドルの上値は一旦は、抑えられ易いか？感謝祭を前にポジション調整も進みやすい。
- 115円の上値抵抗感を上抜くまでは、112円～115円の狭いレンジ相場が継続見通し。一方、115円を上抜いてくると、118円～120円が視野に入る。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(11/22～11/28)

～ 貴金属市場 (金：GOLD) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

インフレ観測
VS
利上げ観測

- 先週レポートで「内外共に2020年高値を起点とした下降トレンドを上抜き、中長期トレンドは上昇に転じてきた。今後、臨時増し証拠金や証拠金引き上げ措置などで、一時的に、利食いの動き・踏み上げ等が出ても、押し目買い基調に変化はない。～中略)。今週は、米FRB関係者の発言予定も相次ぎ、出口戦略に対する思惑に伴う金利動向にも注意したい。」としたが、先週のNY金(12月限)は、インフレ懸念が支援要因だが、足元で5カ月ぶりの高値圏で推移し調整売りが出やすかった中、米国債の利回り上昇や、米フィラデルフィア地区連銀業況指数の上昇などを受けた早期引き締め観測を背景とした利食い売りに上値を抑えられた。
- 先週末のNY金(12月限)は、続落した。ウォラーFRB理事やクラリダFRB副議長は資産購入ペースの縮小を早めることに前向きで、来年に早期利上げを実施するのではないかとの思惑から物価上昇率の加速が抑制される可能性が意識された。
- 欧州で新型コロナウイルスが流行していることも圧迫要因。オーストリアでは感染拡大を抑制するため22日から都市封鎖を再導入するほか、全国民にワクチン接種を義務付ける。ドイツでは都市封鎖の再導入を含めてあらゆる選択肢が検討されており、消費を急減速させ、世界的なインフレ圧力を後退させる可能性が嫌気された。
- CFTC建玉明細(11/16現在)は、259,780枚の買い越し。前週(250,181枚の買い越し)から拡大

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(11/22～11/28)

～ 貴金属市場(金: GOLD) ～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 内外共に2020年高値を起点とした下降トレンドを上抜いてきた。利食いの動きから調整しても、1815ドル～200日移動平均線を維持する限り、中長期の押し目買い基調に変化はない。
- インフレが金融市場のテーマになってきた。10月の米消費者物価指数は、前年同月比6.2%上昇と、1990年11月以来約31年ぶりの高い伸びとなった。インフレは一時的との認識を続けている米連邦準備制度理事会(FRB)が、早期の利上げを開始せざるを得ず、利上げとインフレが景気を圧迫するのではないかと警戒感も高まっている。
- 米CPI発表以降、米長期金利は再上昇したが、上値は限定的となっている。米国ではコロナ対応の大規模な財政出動は一巡し、今後3カ月間(11月～2022年1月)の国債発行額は減少計画だ。FRBがテーパリングを開始したことで、年末年始にかけて、米債券需給は、「金利低下・債券高」圧力がかかりやすい時間帯だ。
- インフレ圧力の高まりがFRBの想定通り、落ち着きを見せてくるようなら、緩やかな利上げに向けて、ゴールドロック(適温相場)が続く、「債券上昇・金利下落」⇒「株買い・金買い」シナリオが想定される。
- 一方、FRBの想定以上にインフレが進行・もしくはインフレ懸念が高まりを見せた場合、利上げの前倒し懸念からの「金利上昇・債券下落」が予想される。エネルギー価格上昇が、スタグフレーション(物価上昇と景気停滞)に陥るリスクが警戒され始めると、「悪い金利上昇」からの「株価下落、金の強い上昇シナリオ」も浮上してくるだろう。それらを見極めるうえでも、原油価格動向が注目だ。FRB人事に伴う金利動向にも注意したい。

インフレ動向・FRB人事が焦点

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(11/22～11/28)

～ 貴金属市場 (白金 : Platinum) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

9月安値を起点とした 上昇チャネル形成中

- 先週レポートで「9月安値を中心とした左右相似形を形成しており、フラクタルな状況が継続するなら、6月～7月に保合ったような流れとなる。次に変化が起こりやすい基本数値・対等数値の時間帯は、11月22日の週に集中する。」「金・白金」の鞘は、金買い・白金売りの状態だが、逆張り圏の動き。
- 環境問題から電気自動車(EV)への移行が進む見通しであることは、白金系貴金属の自動車触媒需要減少要因だが、米中間選挙・大統領選挙の結果次第で、米国の姿勢が急変するリスクも残っている。》としたが、先週のNY白金(1月限)は、インフレ懸念を背景とした金堅調につれ高となったが、買い一巡後は、株安や、欧州の新型コロナウイルスの感染増加、米早期引き締め観測に対する警戒感が嫌気された。
- 先週末のNY白金(1月限)は、続落。欧州で新型コロナウイルスが再び流行し、経済活動の正常化見通しが曇っていることが嫌気された。感染爆発に見舞われているオーストリアでは流行を抑制するため22日から都市封鎖を再導入するほか、全国民にワクチン接種を義務付ける。同国のワクチン接種率は約65%。ドイツでも感染拡大が止まらず、都市封鎖の再導入を含めてあらゆる選択肢が検討されている。
- ウォラーFRB理事やクラリダFRB副議長は資産購入ペースの縮小を早めることに前向きで、インフレ率を押し上げてきた原油相場が高値圏から崩れつつあることも圧迫要因。
- CFTC建玉明細(11/16現在)は、21,013枚の買い越し。前週(17,630枚の買い越し)から拡大。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(11/22～11/28)

～ 貴金属市場(白金: Platinum) ～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- NY白金(1月限)は、9月安値を起点とした上昇チャネル形成中。11月16日にザラバで心理的節目1100ドルを上抜く場面もあったが、戻りは売られて上ヒゲ陰線引け。
- 9月安値～11月高値までの上昇に対する38.2%押しは1029ドル。半値押しは1003ドル。61.8%押しは977ドル。
- JPX白金標準先物も、9月安値を起点に上昇トレンド形成中。11月17日にザラバで心理的節目4000円を上抜くも、戻りは売られて上ヒゲ陰線引け。同水準は7月にも抵抗として機能した。9月安値を中心とした左右相似形を形成しており、フラクタルな状況が継続するなら、6月～7月に保合った流れとなる。次に変化が起こりやすい基本数値・対等数値の時間帯は、11月22日の週に集中する。10月28日安値(3662円)を終値ベースで、割り込むと、テクニカル的な売り圧力が高まりやすい。短期的には、同水準の攻防が焦点。
- 「金・白金」の鞘は、「金買い・白金売り」の状態。
- 電気自動車(EV)の普及で内燃機関車向けの触媒需要は将来減ることが見込まれるのは弱材料だが、電気分解で水素を生成する際の電極に使う白金は、燃料電池車(FCV)や、水素の活用が進めば、需要が増えるとの見方も強い。
- 米ゴールドマン・サックスは10月のレポートで「白金の自動車向け需要は、パラジウムの代替や燃料電池需要の増加により、EVのシェアが増えても成長する」と指摘している。
- 南アの政情不安(地方選挙で与党のアフリカ民族会議(ANC)が惨敗)や、コロナ感染再拡大などは下値支持要因。

パラジウムからの
需要シフトも

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(11/22～11/28)

～ ゴムRSS3号先物～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「国内は、産地対比で割安感の大きい期近限月からショートカバーとみられる動きがあり、順勢が縮小する展開となっている。上海ゴムは15日に11月限が納会し期限切れが一掃されることから、徐々に年明けの産地の減産期を意識した流れとなりそう。
- ～中略)。ラニーニャ現象発生年は、天然ゴム生産で世界第一位のタイでは、多雨となり、タッピング(樹液採取作業)障害が囂される可能性はある。》としたが、先週の先限は、上海ゴムが11月限納会後に、当限が続伸した事や、円安を受けて、JPXゴム先限も240円台を回復。10月の中国小売売上高や、中国鉱工業生産指数は事前予想を上回った。
- 全国生ゴム営業倉庫在庫は、11月10日現在12,885トン(前旬比238トン減)。11月上旬の入出庫は入庫792トン、出庫1,030トン。
- 欧州自動車工業協会(ACEA)によると、10月の欧州連合(EU26)の新車乗用車登録台数は前年同月比30.3%減の66万5001台。半導体不足による生産抑制や新型コロナウイルスの感染拡大などを受けて4カ月連続で減少。

【今週見通し・戦略】

- ゴム相場と相関の高い原油市場が、前週末に各国の戦略備蓄放出懸念からネックラインを割り込み、下げ加速となっており、JPXゴムも下値トライから始まりそう。JPXゴム先限は、ネックライン(11/10安値:227.4円)を割り込むと、テクニカル面からの売り圧力が高まる。ドル円が115円を上抜けなければ、下値の限度を試す流れへ。
- ただし、季節的には月間で最も強気優位な12月を控えており、減産期限月に関しては、テクニカル的な下落局面は、底打ち確認後の買い仕込みとしたい。

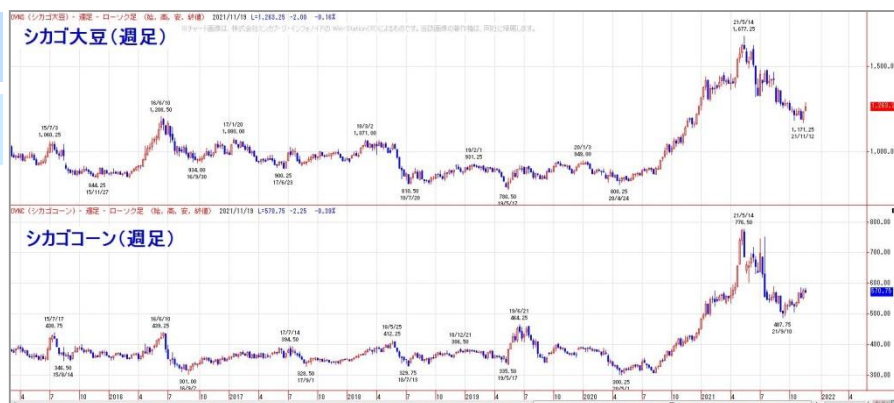
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(11/22～11/28)

～ 穀物市場(大豆・コーン) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「大豆は12ドル、コーンは550¢を回復。強気の需給報告で、ハーベストローは確認された格好。今後は、南米産の生産動向と、中国の駆け込み輸入が材料視される可能性。15日の米中首脳会談で、米国産穀物の追加輸入が出てくれれば上値試しとなりそう」としたが、先週のシカゴ穀物は、価格下落に伴う輸出用の需要増期待や、エタノール需要の増加期待から堅調推移となった。
- 先週末のシカゴ大豆(1月限)は、小幅安。デイリーでの大口輸出成約が発表されなかったことで、アジアの時間帯の騰勢を維持できずに下押された。
- シカゴコーン(12月限)は下落。降雨に恵まれているブラジル産地の作付進捗率が順調なうえ、国際穀物理事会(IGC)が21/22年度の世界生産高見通しを上方修正したことに圧迫された。
- CFTC建玉明細(11/16現在)は、大豆が46,917枚の買い越し。前週(27,584枚の買い越し)から拡大。コーン大口投機玉は、399,186枚の買い越し。前週(375,298枚の買い越し)から拡大。

■ 週間純輸出成約高(11月11日までの週)

大豆:137万4900トン(事前予想レンジ:120万～250万トン)

コーン:104万4600トン(事前予想レンジ:70～140万トン)。

【今週見通し・戦略】

- 米農務省需給報告以降、ハーベストロー(収穫期の安値)確認後の反発局面となっているが、今週は原油市場の調整安に追随しそう。サンクsgivingデーの休場も控えており、ポジション調整は進みやすい。2番底を探る流れへ。

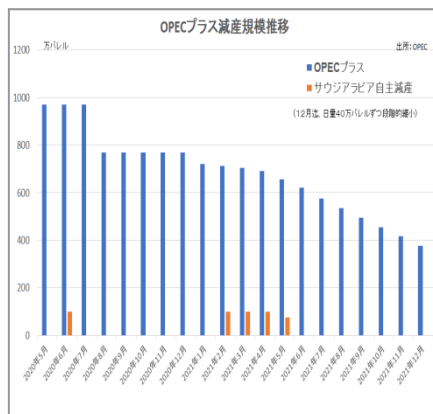
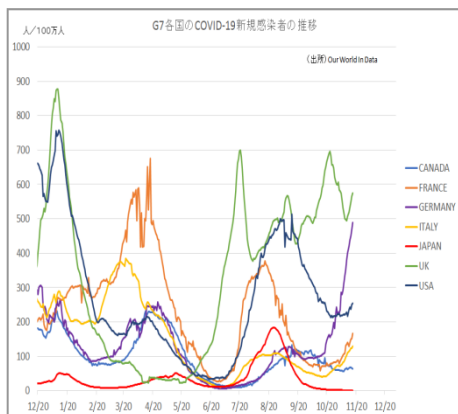
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(11/22～11/28)

～ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「NY原油(12月限)は、価格帯別出来高の厚い82～85ドル水準が上値抵抗。ネックライン(11/4安値:78.25ドル)を割り込むと、一時的に売り圧力が高まる可能性はあるものの、8月安値～10月高値までの上昇に対する38.2%押し(76.1ドル)水準や心理的節目75ドル近辺では、押し目買い直される可能性」としたが、先週は、直近の石油輸出国機構(OPEC)月報で慎重な需要見通しが示されたほか、国際エネルギー機関(IEA)月報で、供給拡大によってタイトな需給環境が和らぐ兆候があると指摘された中、米国が日本をはじめとする同盟国や中国に対し、政府の石油備蓄放出を検討するよう要請と伝わり、各国連携による需給緩和を意識した売りが優勢となった。欧州の一部で新型コロナウイルスの感染者が急拡大していることも重し。

戦略備蓄放出観測

- 先週末のNY原油(12月限)は、大幅反落。一時は75.37ドルと1カ月半ぶりの安値を付けた。オーストリア政府は19日、新型コロナの感染拡大を受け22日から全土でロックダウン(都市封鎖)を実施すると発表した。全国民にワクチン接種を義務付ける。同国のワクチン完全接種率は約65%。ドイツなど他の主要国でも厳しい規制が導入されるとの見方もあり、欧州の景気減速懸念が強まった。
- 米政府が原油の備蓄放出で協調するよう各国に求めたことも引き続き相場の重荷となっている。米国が原油備蓄の放出を要請したとされる中国や韓国なども協調して備蓄放出に動くかどうかには神経質な状況となっている。供給不足見通しが根強いなかでの効果は一時的だが、足元では需給悪化が警戒されていることから、放出された場合に相場を強く押し下げる可能性が意識される。
- CFTC建玉明細(11/16現在)は、415,785枚の買い越し。前週(421,312枚の買い越し)から縮小。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(11/22～11/28)

～ 原油市場(ドバイ原油・CME原油指数)～

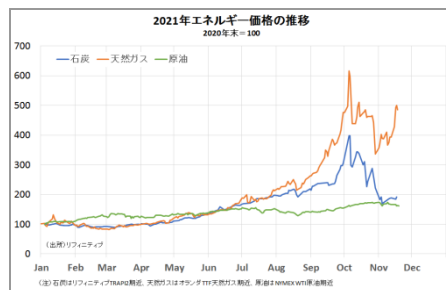
調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- NY原油(1月限)は、ネックライン(11/4安値:77.23ドル)を割り込み下げ加速。
- 8月安値～10月高値までの上昇に対する38.2%押し(75.02ドル)を試す流れとなった。半値押しは72.3ドル。



安値売込みは避けた

- 今年のNY原油は、当先的大幅逆鞘が形成される中、取引最終日直前に急落・ロールオーバー後に、押し目買い直されるパターンが繰り返しており、19日(満月)に12月限の取引最終日を控えていたことも内部要因からの売り要因となった。テクニカル・サイクル面からは、対等数値の時間帯や、満月接近で、変化が起こり易かった。(11/18付:テクニカル分析レポート参照)
- 国際エネルギー機関(IEA)月報で、11～12月の原油生産の増加見通しが示されたことや、新型コロナ感染再拡大で需給見通しは弱気に傾きつつある中、12月2日の「OPECプラス」会合で、毎月日量40万バレルずつ増産を変更して、一段の増産要請に応じるか否かは不透明。価格が下落傾向を強めており、一段の増産(減産縮小)は回避されそうだ。
- ドイツが16日、ロシアからの天然ガスパイプライン「ノルドストリーム2」の承認手続きを一時停止したことで、再び天然ガスの供給懸念が浮上している。稼働は来年3月になるとの見方があり、今冬の供給は間に合わない状況。
- また、11月29日に予定されているイランと米国の核合意再建に向けた間接協議も、早々に合意に至る可能性は低い。安値売込みは避けた。戦略備蓄放出の規模次第では、V字の戻りもあるだろう。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

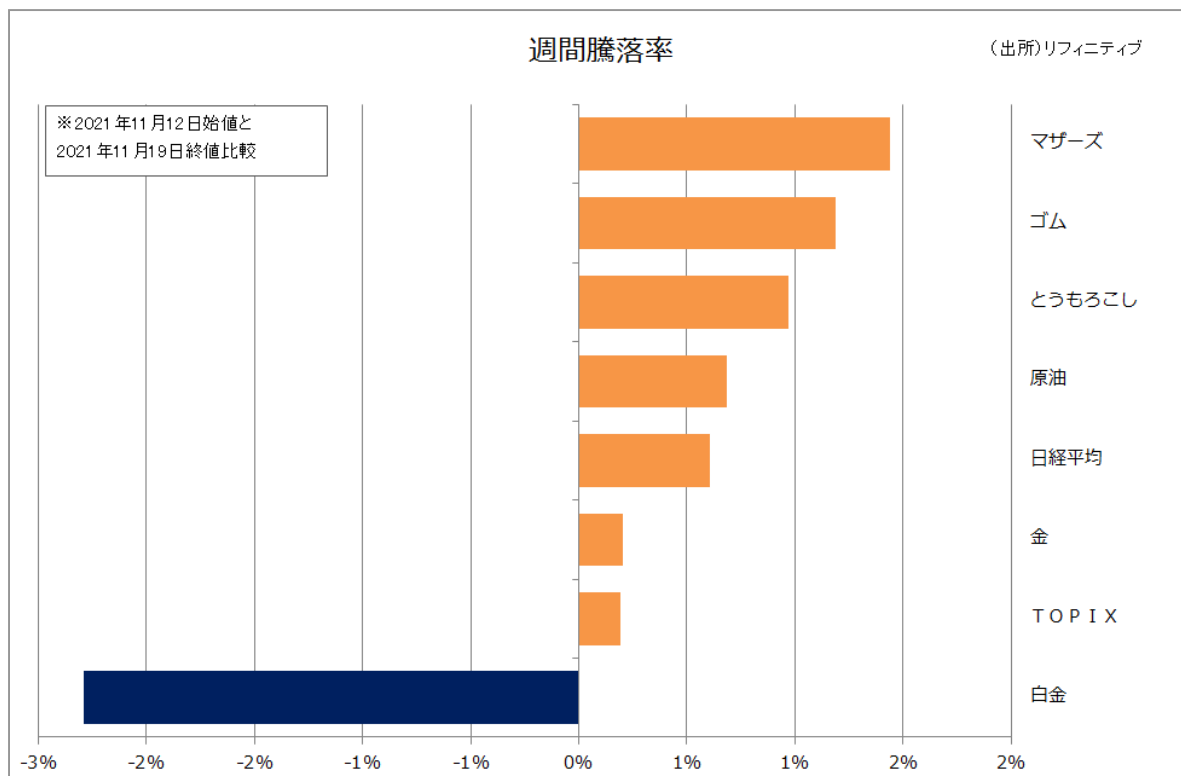
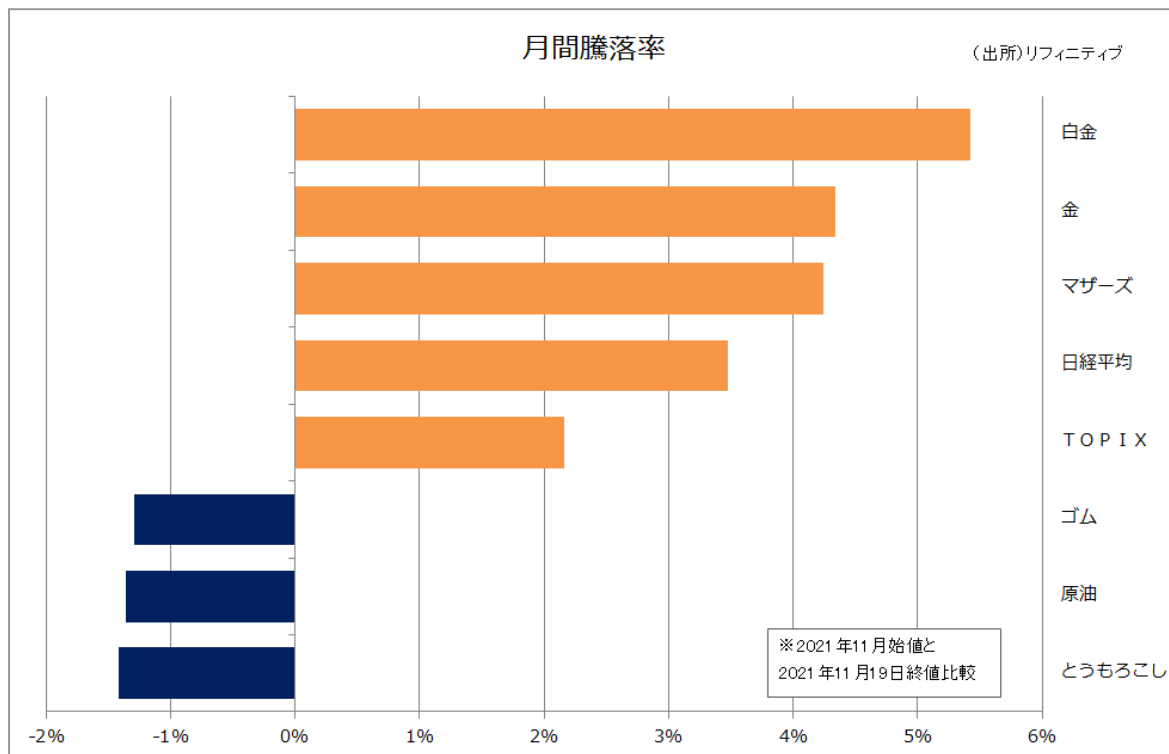
【週間行事予定(11/22~11/28)】

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回	事前予想
11月22日(月)	20:00	英国	11月	CBI 動向 - 受注	9	
11月23日(火)	0:00	米国	10月	中古住宅販売戸数	6.29 (百万)	6.20 (百万)
	0:00	米国	10月	中古住宅販売増減率	7.0%	
	0:00	ユーロ圏	11月	消費者信頼感指数 速報値	-4.8	
	16:00	ドイツ	Q4	国内総生産 (GDP) 速報値 (前期比) 季調値		
	16:00	ドイツ	Q4	国内総生産 (GDP) 速報値 (前年比) 原数値		
	17:30	ドイツ	11月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	57.8	
	17:30	ドイツ	11月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	52.4	
	17:30	ドイツ	11月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	52	
	18:00	ユーロ圏	11月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	58.3	
	18:00	ユーロ圏	11月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	54.6	
	18:00	ユーロ圏	11月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	54.2	
	18:30	英国	11月	総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	57.8	
	18:30	英国	11月	製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	57.8	
	18:30	英国	11月	サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	59.1	
	20:00	英国	11月	CBI 小売売上高	30	
	23:45	米国	11月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	57.6	
	23:45	米国	11月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	58.4	
	23:45	米国	11月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	58.7	
	休場	日本	---	勤労感謝の日		
11月24日(水)	18:00	ドイツ	11月	IFO 業況指数 (新)	97.7	
	18:00	ドイツ	11月	IFO 現況指数 (新)	100.1	
	18:00	ドイツ	11月	IFO 期待指数 (新)	95.4	
	22:30	米国	10月	耐久財受注	-0.3%	0.2%
	22:30	米国	10月	耐久財受注 輸送機器除く	0.5%	0.4%
	22:30	米国	Q3	国内総生産 (GDP) 改定値	2.0%	2.2%
	22:30	米国	Q3	国内総生産 (GDP) デフレーター 改定値	5.7%	
	22:30	米国	Q3	コア 個人消費支出 (PCE) 価格 改定値	4.5%	
	22:30	米国	11月15日, 週次	新規失業保険申請件数		
	22:30	米国	11月8日, 週次	継続失業保険受給総数		
	納会	日本	---	ゴムRSS3 2021年11月限納会日		
11月25日(木)	0:00	米国	10月	個人所得 (前月比)	-1.0%	0.2%
	0:00	米国	10月	実質消費支出 (前月比)	0.3	
	0:00	米国	10月	消費支出 (前月比) 季調値	0.6%	0.8%
	0:00	米国	10月	コア 個人消費支出 (PCE) 価格指数 (前月比)	0.2	0.4
	0:00	米国	11月	ミンガンズ 消費者信頼感指数 確報値	66.8	66.9
	0:00	米国	10月	新築住宅販売戸数	800000	802000
	16:00	ドイツ	Q3	国内総生産 (GDP) 改定値 (前期比) 季調値	1.8%	
	16:00	ドイツ	Q3	国内総生産 (GDP) 改定値 (前年比) 原数値	2.5%	
	16:00	ドイツ	12月	Gfk 消費者信頼感指数	0.9%	
	休場	米国	---	感謝祭 サンクスギビング・デー		
	納会	日本	---	小豆2021年11月限納会日		
	納会	日本	---	東京石油製品2021年11月限納会日		
	8:30	日本	11月	東京都都区消費物価指数 (CPI) (前年比)	0.1%	
11月26日(金)	8:30	日本	11月	東京都都区消費物価指数 (CPI) 総合 (前年比)	0.1%	
	18:00	ユーロ圏	10月	マネーサプライ M3 伸び率 (前年比)	7.4%	
11月27日(土)						
11月28日(日)						

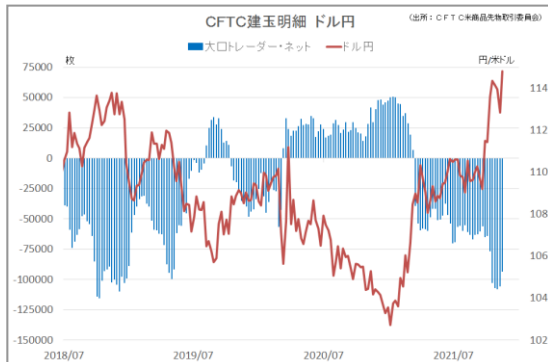
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【騰落率(月間・週間)】

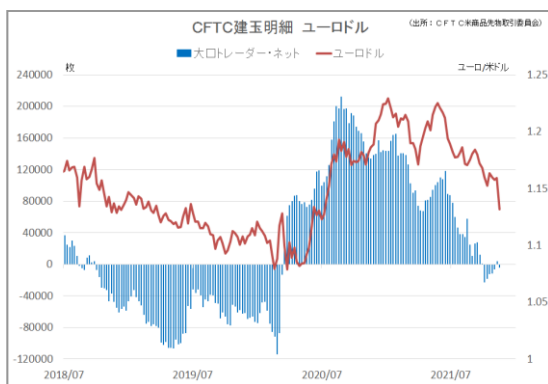


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

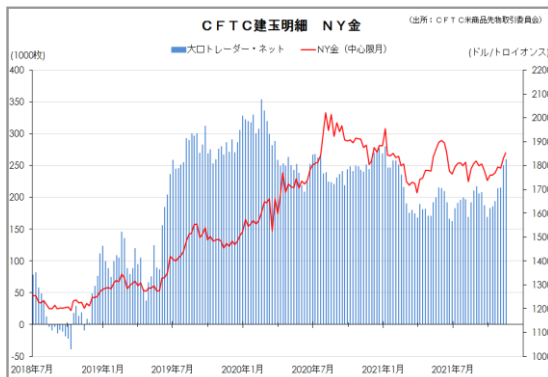
【CFTC建玉明細】



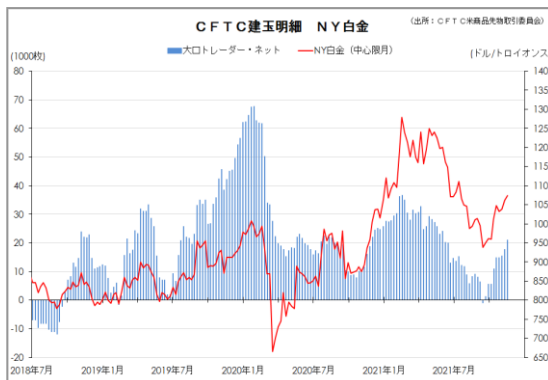
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/19	35,713	138,447	-102,734	114.36
2021/10/26	31,487	138,523	-107,036	114.14
2021/11/2	20,337	127,961	-107,624	113.95
2021/11/9	16,440	121,791	-105,351	112.85
2021/11/16	24,635	117,761	-93,126	114.82
前週比	8,195	-4,030	12,225	1.97



日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/19	193,320	205,427	-12,107	1.1632
2021/10/26	196,880	208,136	-11,256	1.1595
2021/11/2	191,496	197,634	-6,138	1.1577
2021/11/9	192,544	188,771	3,773	1.1591
2021/11/16	198,181	202,007	-3,826	1.1319
前週比	5,637	13,236	-7,599	-0.0272



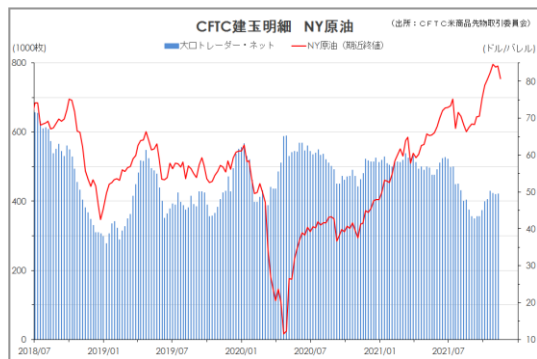
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/19	299,882	106,533	193,349	1770.5
2021/10/26	313,646	99,086	214,560	1793.4
2021/11/2	311,091	95,962	215,129	1789.4
2021/11/9	341,111	90,930	250,181	1830.8
2021/11/16	360,529	100,749	259,780	1854.1
前週比	19,418	9,819	9,599	23.3



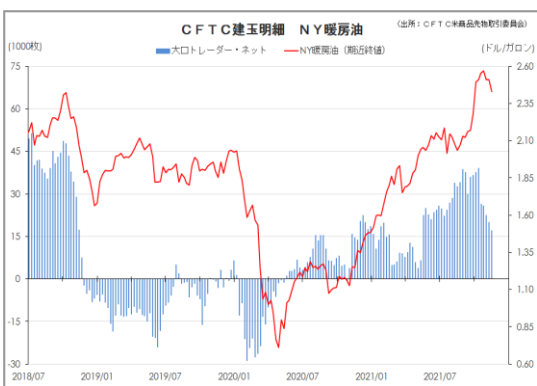
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/19	30,917	16,073	14,844	1047.1
2021/10/26	29,445	14,543	14,902	1032.9
2021/11/2	28,870	13,506	15,364	1039.3
2021/11/9	30,260	12,630	17,630	1061.4
2021/11/16	33,266	12,253	21,013	1074.5
前週比	3,006	-377	3,383	13.1

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

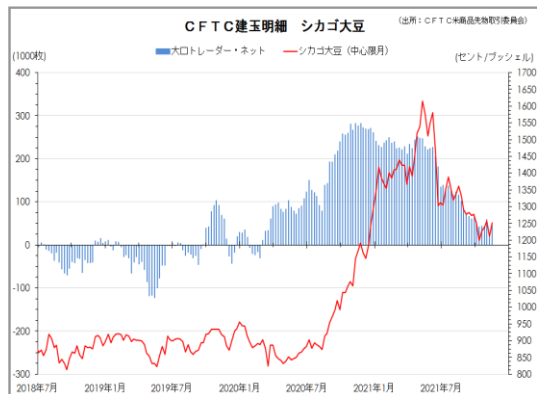
【CFTC建玉明細】



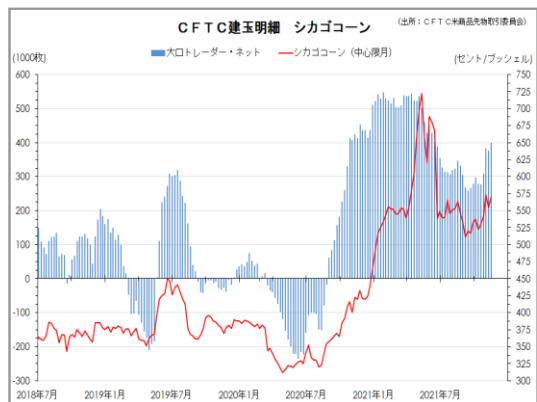
NY原油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/19	565,720	136,126	429,594	82.44
2021/10/26	550,171	126,453	423,718	84.65
2021/11/2	548,631	129,338	419,293	83.91
2021/11/9	552,579	131,267	421,312	84.15
2021/11/16	510,169	94,384	415,785	80.76
前週比	-42,410	-36,883	-5,527	-3.39



NY暖房油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/19	68,516	42,075	26,441	2.5517
2021/10/26	68,785	42,994	25,791	2.5685
2021/11/2	62,233	39,849	22,384	2.5082
2021/11/9	54,200	34,178	20,022	2.5081
2021/11/16	53,501	36,472	17,029	2.4309
前週比	-699	2,294	-2,993	-0.0772



シカゴ大豆				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/19	138,576	95,035	43,541	1228.00
2021/10/26	126,049	82,819	43,230	1238.00
2021/11/2	135,938	77,182	58,756	1256.25
2021/11/9	123,904	96,320	27,584	1212.00
2021/11/16	132,364	85,447	46,917	1251.25
前週比	8,460	-10,873	19,333	39.25



シカゴコーン				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/19	390,081	113,052	277,029	530.25
2021/10/26	404,890	97,080	307,810	543.50
2021/11/2	482,734	99,625	383,109	573.00
2021/11/9	476,313	101,015	375,298	554.75
2021/11/16	504,851	105,665	399,186	571.00
前週比	28,538	4,650	23,888	16.25

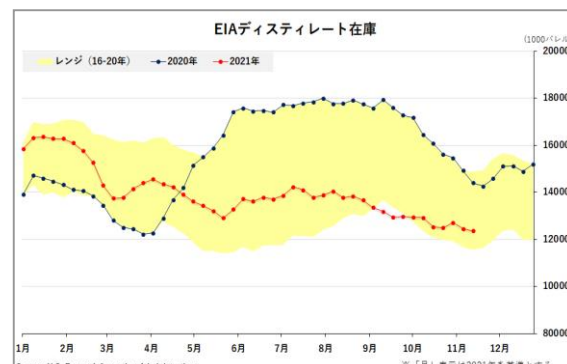
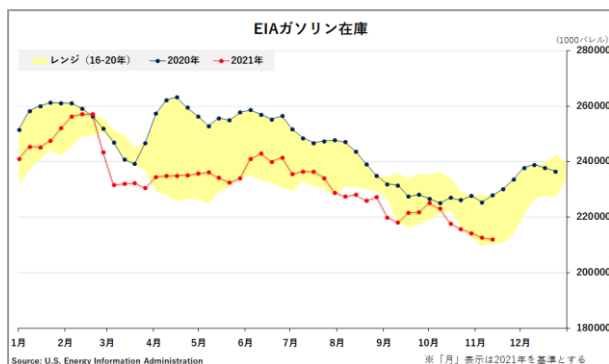
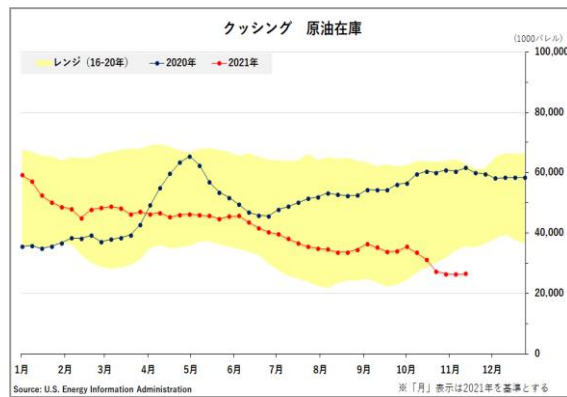
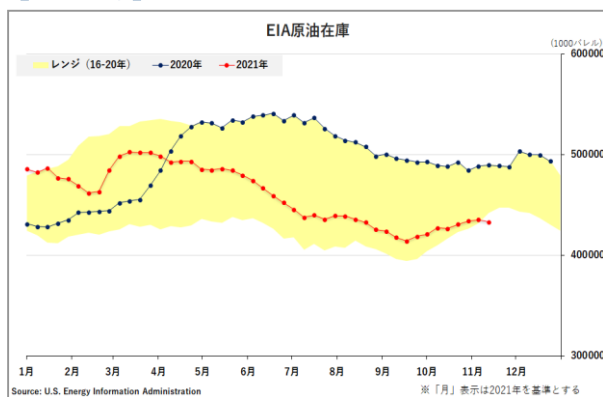
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金ETF (SPDR)】



日付	金保有高(トン)	前営業日比
2021/11/19	985.00	+8.13
2021/11/18	976.87	±0
2021/11/17	976.87	+0.88
2021/11/16	975.99	±0
2021/11/15	975.99	±0
2021/11/12	975.99	±0
2021/11/11	975.99	+0.58

【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

当社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第131号 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。